

2002年度（平成14年度）第3回常務理事会記録

日時：

2002年（平成14年）8月1日（木）11:00—13:30

場所：

学士会分館2号室

出席者：

廣川信隆（理事長）、猪口哲夫、河田光博、高田邦昭、山科正平（以上常務理事）、
依藤宏（幹事）、小森雄一郎（学会事務センター）

欠席者：

なし

I. 会議記録の確認

1. 2002年（平成14年）3月29日第1回理事会記録（案）
2. 2002年（平成14年）3月29日第1回理事会議事録文部科学省提出用（案）
3. 2002年度総会議事録（案）

以上3件の会議記録（案）が承認された。

II. 報告事項

1. 庶務報告（猪口哲夫庶務担当理事）

A. 会員異動報告（正会員2,532名 2002年1月31日現在）

- 2002年（平成14年）2月分
 - i. 入会者：正会員4名、学生2名、団体1社
 - ii. 退会者：正会員11名、賛助1社、海外1名
 - iii. 住所変更等11件
- 2002年（平成14年）3月分
 - i. 入会者：正会員11名、学生19名
 - ii. 退会者：正会員14名、評議員1名、賛助1社
 - iii. 住所変更等25件
- 2002年（平成14年）4月分
 - i. 入会者：正会員5名、学生4名
 - ii. 退会者：正会員18名
 - iii. 住所変更等39件
- 2002年（平成14年）5月分
 - i. 入会者：正会員4名、学生6名

- ii. 退会者：正会員19名、学生1名、評議員1名（逝去退会：岸田令次氏）
- iii. 住所変更等26件
- 2002年（平成14年）6月分
 - i. 退会者：正会員9名
 - ii. 住所変更等6件
- B. 教授就任による学術評議員就任者
鳥越甲順氏（東海大学生体構造機能系形態学 / 旧 福井医科大学第二解剖 助教授 就任日2002年4月1日付）
- C. 学会に届けられた文書等
 - i. 通知
 - a. 文部科学省より
 - 「学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）」
 - 「疫学研究に関する倫理指針の施行等について（通知）」
 - b. 厚生労働省より
「国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 -」
 - c. 日本医学会より
第120回 日本医学会シンポジウム記録集「血管新生の基礎と臨床」
 - d. 第26回 日本医学会総会事務局より
「総会ガイド第3号」
 - e. (財) 日中医学協会より
「日中医学大会2002」パンフレット
 - f. 日本リウマチ学会より
「“慢性関節リウマチ”の診断名変更のお知らせ」
 - g. 日本公衆衛生学会より
「たばこのない社会」の実現に向けて（声明文）
 - h. 公益信託 時実利彦記念脳研究助成基金事務局より
「公益信託 時実利彦記念脳研究助成基金 平成14年度助成者決定について」（お知らせ）
 - ※上記 a. については高田編集担当理事を通して情報技術委員会（辰巳治之委員長）に廻すこととした。
 - ii. 書籍、定期通信他
 - a. 日本医学会より
「日本医学だより 2002年5月No.27」
 - b. 国立情報研究所より
 - 「NII News No.9,10」
 - 「NII Journal No.4」
 - c. 日本医師会より
「JMAJ Vol.45 No.4～6」
 - d. (財) 日本学術協力財団より

- 「学術の動向 2002-4~7」
 - e. (財) 国際医学情報センターより
「あいみっく Vol.23 No.2」
 - f. (財) 国際医療機能評価機構より
「News Letter No.1,2」
 - g. 科学技術振興事業団より
「J-STAGE News No.5」
 - h. 学術著作権協会より
「学著協ニュース No.7」
 - i. 理化学研究所脳科学総合センターより
「RIKEN BSI News No.15,16」
 - j. (社) 日本整形外科学会より
「日整会広報室ニュース 第49号」
 - k. (社) 日本農村医学会より
「農村医学の歴史と21世紀の展望」
 - l. (社) 神奈川県医師会より
「神奈川医学会雑誌 Vol.29 No.1」
 - m. 中日友好医院より
「中日友好医院学報 第15巻 第6期、第16巻 第1期」
 - n. Institute of Agriculture & Life Science Gyeongsang National Universityより
「J. Agriculture & Life Sciences Vol.35」
 - iii. 会告掲載、推薦及び出席依頼等
 - a. (財) 井上科学振興財団より
「第19回 井上學術賞」候補者推薦依頼
推薦締切：2002年9月20日（必着）
 - b. (財) 内藤記念科学振興財団より
「第34回 内藤記念科学振興賞」候補者推薦依頼
推薦締切：2002年10月10日（必着）
 - c. (財) 風戸研究奨励会より
「平成14年度 風戸研究奨励金及び風戸奨励賞」公募案内
 - d. (財) ブレインサイエンス振興財団より
「第17回 塚原仲晃記念賞、第17回 研究助成並びに第16回 国際交流女性候補」推薦・公募案内
- ※上記4件については公募案内をホームページに掲載済みである。尚、
a、bについて学会からの推薦を希望する場合は8月1日までに事務局宛に
公募書類を提出することとしたが、1件の応募もなかったため締切を延長
し、理事会を通して再度募集することとした。
- e. 第22回 医療情報学連合大会事務局より
「第22回 医療情報学連合大会」協賛依頼

会期：2002年11月14日～16日

会場：アクロス福岡

f. レーザー顕微鏡研究会より

「レーザー顕微鏡研究会 第28回 講演会」協賛及び会告掲載依頼

会期：2002年7月4日—5日

会場：富士写真フイルム株式会社 本社ホール

g. (財)千里ライフサイエンス振興財団より会告掲載依頼

■ 千里ライフサイエンス技術講習会 第31回「蛍光顕微鏡細胞マルチカラーイメージング技術」

■ 千里ライフサイエンスセミナー「生活習慣病の主役としての脂肪細胞 - アディポサイエンスの新展開 -」

※上記3件については協賛及びホームページに会告掲載をすることとした。

D. 2004年度科研費審査委員候補者選出に関する研連への通知について

2002年4月15日最終的な「候補者リスト」を解剖学研連 平野委員長に提出したところ4月30日付で

a. 解剖学一般については細目に示す「解剖学一般1」と「解剖学一般2」に分類していないリストを追加作成し、提出すること。

b. 「キーワード」はできる限り埋めること

の2点の要望があった。a. については、既提出の「解剖学一般1」「解剖学一般2」のリストをタスキ掛けにして作成し直したリストを用意し、b. については本人に照会する時間的余裕がなかったため、理事長の指示により庶務担当理事が記入を行い、5月1日追加提出を完了した。なお現研連委員である猪口庶務理事が4月の研連委員会において、「毎年このような混乱を生ずる経過となることがあってはならないと思う。研連委員長として善処をお願いしたい」旨、発言したことへの報告があった。

E. 会員名簿作成委員会報告

会員名簿の作成状況は当初の予定通り進行している旨、報告があった。

F. その他

廣川理事長より近年の科研費の動向について発言があった。

2. 編集報告（高田邦昭編集担当理事）

A. 「Anatomical Science International (ASI)」及び「解剖学雑誌」刊行報告
ASI:

i. 編集・刊行及びMedlineの解剖学雑誌からの移行については順調に進んでいる。

ii. インパクトファクターの登録申請については雑誌の質を良くし、実績を積むことが先決との考えである。

iii. 電子ジャーナル化については既に実現し、Blackwellのホームページで公開されているが、閲覧用のパスワードの公開方法については検討中である。

iv. 千葉編集長より増頁とカラー表紙印刷代の学会負担の提案があったが、今

年度は当初の予算内で行うとの結論が出された。

解剖学雑誌：

- i. 同時発送としているASI発刊の遅れから解剖学雑誌77巻2号収載の一般解剖・組織技術士試験の申込み締切が間に合わなくなり、お詫びと対応に関する記載の紙を添付した。
- ii. 海外名誉会員Pietro M. Motta教授の逝去に伴う追悼文を藤田恒夫会員に依頼することになった。
- iii. 4月の編集委員会決定の特集「遺体を使った研究について」は諸般の事情により9月号での掲載は難しいと考えられる。

B. 学会ホームページについて

解剖学用語委員会の答申をホームページに掲載する件は情報技術委員会（辰巳治之委員長）の協力によりおおよそ完成し、最後の技術的な問題を詰めている段階である。

C. その他

NII（国立情報学研究所）の学会抄録データベースが平成14年度で終了することへの対策情報技術委員会 辰巳治之委員長より、NIIの学会抄録データベースは平成14年度で終了し、登録済みのデータはJstageに移行する。その移行の手続きはJSTが行う。抄録データベースを解剖学会としてフル公開とするか、制限を加えるか決定する必要がある等の報告があった。この後者については審議の結果、フル公開とすることになった。

3. 企画・渉外報告（河田光博企画・渉外担当理事）

A. 第16回国際解剖学会議（2004年度開催）準備状況について

first circular、ポスターは図案を考慮中であり、決定次第送付する予定である。また国内学会（学術集会・総会）との関係をどうするかを理事会で決定して欲しい旨、井出千束組織委員長より要請があった。

B. その他

i. 解剖・組織技術士認定規約について

解剖・組織技術士資格審査委員会 山下和雄委員長より解剖・組織技術士認定規約に不備のある旨連絡があり、委員会で検討の上、文書にして提出してもらったことになった。

ii. 第4回 アジア太平洋解剖学会議（APICA）開催国について第4回 APICA開催国としてトルコ及びチリから応募があり、現在トルコからの国内解剖学会の現状について文書で平野寛解剖研連委員長に対し提出を依頼しているところである。

C. 第108回 日本解剖学会総会・全国学術集会について日米合同企画については海外交流委員会（佐々木順造委員長）にシンポジウムの立案を依頼中である。尚、米国側シンポジストについては渡航費は先方負担、国内旅費は日本側の負担となる。

● 会計報告（山科正平会計担当理事）

- 2002年度（平成14年度）3～7月分会計報告

上記会計報告が行われた。尚、文部科学省に応募していた科研費（研究成果公開促進費）が認められ、210万円が交付された。

- その他

- A. 第3回APICA会計報告

- 杉浦康夫組織委員長より送付された収支報告書に基づき、上記会計報告が行われた。

- B. 第107回 日本解剖学会総会・全国学術集会会計報告

- 山下昭会頭より送付された収支報告書に基づき、上記会計報告が行われた。

III. 審議事項

1. 「第6回 VIP/PACAP関連ペプチド国際シンポジウム」後援依頼について
昭和大学医学部第一解剖学 塩田清二教授より、上記国際シンポジウムについて後援の依頼があり、審議の結果了承された。
2. 2003・2004年度（平成15・16年度）役員及び2005年度（平成17年度）科研費審査委員候補者選出選挙スケジュールについて
表記選挙のスケジュール（案）が呈示され、審議の結果了承された。
3. 第108回 日本解剖学会総会・全国学術集会開催要綱及び予算案について
猪口会頭より説明があり、審議の結果了承された。尚、要綱は2002年9月発行予定の解剖学雑誌に掲載予定である。
4. 第108回（2003年度（平成15年度））総会及び学術評議員会の同時開催について
全国学術集会開催時の「通常総会」と「学術評議員会」とは近年、審議案件の重複等により殆ど変わらない内容の議事が繰り返され、それぞれは議事進行で時間に追われるなどの問題も出てきている。このことから平成15年度以降の全国学術集会時の両会議は同時開催とし、個々の審議時間に余裕を持たせるとともに両会議開催の形式的に過ぎる側面を取り除くことが提案された。この件につき審議の結果了承され、理事会に提案されることとなった。尚、平成9～11年度の後期総会はいずれもこの「同時開催」方式である。
5. 第110回（2005年度（平成17年度））総会・全国学術集会開催校について
第110回 総会・全国学術集会開催校については全国公募を行い、複数の候補が出た場合は地域性その他を考慮の上、理事会で決定することが承認された。
6. 第109回（2004年度（平成16年度））総会開催方法について
国際解剖学会議開催の年の第109回総会については、総会のみを4月に実施しても会員が集まらないことが予想されるので、国際学会と同時開催が望ましく、この点について文部科学省に問い合わせた。返事としては概略を予め提出しておき、総会実施後に変更点を報告することで差し支えないとのことである。従って、当該年度の総会は8月の国際解剖学会議との同時期に開催されることので了承された。
7. 「新・人体の不思議展」について
「読売テレビ」、「人体の不思議展監修委員会」、「アトミ-研究所」主催「新・人体の不思議展」について主催者より医学会総会の事業の一環として解剖学会にも係

わって欲しいとの要望が寄せられた。慎重な検討の結果、解剖学会としては直接係わることはせず静観すること、並びに積極的な意義を見出す解剖学者がボランティアとして協力するという形が最も適当であるとの結論に達した。

8. 各種懇話会活動について

各種懇話会活動については解剖学会としても会の開催にあたっては会場を用意する等の援助を行ってきている。その在り方としては解剖学会を補完する存在であって欲しいと考えている。

9. 各種委員会活動の実情について

解剖学会には3つの常置委員会と7つの専門委員会が設置されているが、委員会はその任務により活動状況に差が見受けられる。この点につき審議が行われた。結論としては委員会の任務は多様であるので当面は現状の維持を考え、理事会に諮ることが決定された。

10. その他

A. 動物実験ガイドラインに関して

動物実験ガイドラインは学術委員会に作製を依頼済みである。

B. 日本医学会評議員、連絡委員について

日本医学会評議員には廣川理事長が、連絡委員には猪口庶務担当理事があたっていた（2001年度第1回理事会議事録参照）が、今回廣川理事長が医学会の幹事に選任されたため、新たに選び直す必要が生じた。審議の結果、評議員に猪口庶務担当理事が、連絡委員には河田企画・渉外担当理事があたることとなった。